

3 安全性を分析する

Q. 安全性分析の意味と改善方法は？

要旨 安全性は、企業の倒産などのリスクを確認する指標です。短期的または長期的な視点から、貸借対照表の資産・負債・資本のバランスを検証します。安全性は主として貸借対照表の財務構造に依存して計算しますが、債務の返済は、資産の多寡によって返済されることは少なく、企業活動において獲得した利益により返済することが理想です。そのため、企業の債務返済能力はストック項目だけでなくフロー項目にも着目して総合的に評価しなければなりません。

解説

1. 安全性分析の必要性

企業の資産・負債・資本のバランスを考慮した指標が安全性です。短期的な負債（流動負債）は短期的な資産（流動資産）で賄っているのか、設備投資（固定資産）に対しては長期的な負債（固定負債）及び自己資本で調達できているかなど、債務の支払能力や資産の調達能力を検証する指標です。このバランスが崩れた場合には、支払を行わなければならないときに、手元に支払うことができる資産（キャッシュ）がないことになり、経営が安定しません。資産・負債・資本のバランスを見極めて経営を行う必要があります。

2. 安全性の改善

①短期的な安全性の改善

短期的な安全性の指標が悪い場合には、将来の倒産リスクにもつながるため、早急に改善する必要があります。使用しない固定資産の売却、運転資金の借入、借入金の元本棚上げなどをしなければならない可能性もあります。これらはあくまで応急処置であって、短期的な安全性が悪化した原因を追究し、改善しなければ、根本的な改善

は見込めません。

②長期的な安全性の改善

長期的な安全性の改善は、一朝一夕でできるものではありません。利益を獲得し、自己資本を積み上げることでしか根本的な解決にはつながりません。利益獲得の戦略を練り、計画を立て実行することが第一です。

ただし、利益を獲得する間に、会社が倒産したのではどうしようもありません。そのため長期的な安全性も確保する必要があります。

例えば、固定長期適合率が大きくなっている場合には、設備投資が長期の借入と自己資本で賄うことができず、短期の借入で賄っていることが考えられます。経営の安全性を確保するため、固定長期適合率や有利子負債月商倍率の改善を喫緊の課題としてください。

短期・長期の二つの視点で安全性を分析

＜ご提案のポイント＞

- ・企業の財務が健全かどうかを確認することができます。
- ・短期的な支払能力、設備投資に対する資金の調達方法などさまざまな観点から指標を分析することにより、財務の健全性を確認し改善することで、経営を安定させることができます。

1. 安全性とは

安全性とは資産・負債・資本のバランスを指標化することで、その企業の債務の支払能力を検証する指標です。短期的または長期的な観点から債務の支払能力を確認することで、資金繰りのリスク（倒産のリスク）を確認することができます。

2. 安全性の分析方法

①短期的な安全性分析

1年以内に支払う必要がある流動負債に対し、1年以内に現金化することができる流動資産や手元の現金同等物である当座資産がどのくらいあるのかを確認し、短期的な債務の支払い能力を裏付ける指標です。流動比率や当座比率は200%以上あることが望ましいものの、最低でも100%を確保する必要があります。

①流動比率（％）	$\text{流動資産} / \text{流動負債} \times 100$
②当座比率（％）	$\text{当座資産} / \text{流動負債} \times 100$
③現預金月商倍率	$((\text{現金} + \text{預金} + \text{短期有価証券})) / \text{月商}$

②長期的な安全性分析

長期的な安全性は、自己資本比率で確認します。自己資本が充実していれば、とりあえず安全性が高いといえるでしょう。自己資本比率が10%以下の場合には要注意で、40%以上が理想です。

次に、自己資本または自己資本に固定負債をプラスしたものと固定資産のバランスを確認します。長期間使用する固定資産を返済の必要のない自己資本や自己資本と固定負債（1年以内に返済の必要がない借入金）を足したもので賄えているかを、固定比率や固定長期適合率などで確認します。

①自己資本比率（％）	$\text{自己資本} / \text{総資本} \times 100$
②固定比率（％）	$\text{固定資産} / \text{自己資本} \times 100$
③固定長期適合率（％）	$\text{固定資産} / (\text{自己資本} + \text{固定負債}) \times 100$
④有利子負債月商倍率	$\text{有利子負債} / \text{月商}$